

2017年7月3日

6月26日～28日

## 北信越平和フォーラム沖縄連帯行動参加報告

上伊那地区労働組合会議 北原和雄

6月26日（月）～28日（水）に北信越沖縄連帯行動に長野県から濱共同代表とともに参加してきました。

初日は、15時から沖縄平和運動センター事務局次長の岸本喬さんに講師をお願いして、学習会を開催していただきました。

沖縄の普天間基地移設新基地工事や高江ヘリパッド工事のこれまでの闘いに関して、米軍（米国）と日本政府を相手に闘ってきた現地の声を聞いてきました。

2013年12月27日、仲井真前沖縄知事が安倍首相と会談した二日後、防衛局による辺野古埋め立て申請を突然承認されたことから、政府との闘いが再開された。これまで新基地建設反対の立場から賛成の立場になり、現地は元より、関連する職場の対応も変更されることになった。

その後、名護市長選とともに新基地建設に反対する翁長新知事態勢になり、2015年10月に埋め立て承認を取り消しにするも国が高裁に提訴。そこから現在まで政府とのやりとりが続くなか、現場では強固なる警備の中、工事を強行する政府があります。

高江では毎年3月1日から6月末まで工事は中止となります。ノグチゲラの営巣期間のためだが、この間も警備員が派遣され続け、その額1日なんと1,800万円なり。政府と契約している警備会社テイケイとアルソックに多額の契約金が渡っている模様。

そして、私たちが帰ったあと、7月1日には高江での工事が再開され、さらに多くの警備員と機動隊が現地へ赴き、工事に反対する沖縄県民を現場から排除する行動が再開されています。

また、辺野古・大浦湾の岬に昨年墜落したオスプレイに関し、同日に普天間基地で胴体着陸をした事故と合わ



せ、沖縄県民に与えた衝撃と不安は計り知れないものであり、在沖縄海兵隊トップのニコルソン氏が「居住地を外し着地地点を海岸まで延ばしたことは、逆に感謝されるべき」と発言した事には、沖縄県民の怒りが爆発したということです。

現在までに配備されたオスプレイは、墜落破壊された1機と、本国へ移送された胴体着陸機、理由が分からないがその他2機の計4機が普天間基地から運用を外されているとのこと。

なお、嘉手納基地に配備されている戦闘機はすでに旧式（制空戦闘機：敵戦闘機との空戦を任務とする）であり、いずれ最新鋭ステルス機F35A空軍仕様機（マルチロール機：戦闘、攻撃と多用途機）と入れ替えがされることは決定されていますが、辺野古新基地との関係も取りだたされているとのこと。オスプレイはあくまで輸送機であり、辺野古を利用する機材は最新のステルス戦闘機も含まれていると言われ、米国ではすでに青写真ができており、日本政府へも伝わっているのではとのことでした。

ただ、垂直離発着ができるF35Bは海兵隊仕様機であり、これは現在岩国基地に配備されている機体となります。本当に新基地が出来てしまった場合に配備されるとなると、

- ①岩国の部隊が辺野古に移動か、二つの基地を利用する変則配備か。
- ②新たな部隊が辺野古に配備される。
- ③嘉手納基地配備の機材が変更になる（嘉手納は空軍基地であり、これはあり得ないか）等推測されますが、その時の世界情勢によりどうなるか解らないが順当なところでしょうか！

大型揚陸艦やその他艦船が基地に直接接岸されることにより、様々な兵器が簡単に持ち込むことが出来るようになる辺野古は、さらに機能強化されていくのではないかと、現地では心配しているようです。

なお、B61改造型の核爆弾がF35Aタイプの米国空軍仕様機のみを実装できるようになっているとのこと。すなわち、嘉手納に配備される機材には搭載可能となる。

そして、この学習会の最中、嘉手納にF35ステルス戦闘機が2機飛来しているとは思ってもみませんでした（後記）。

翌27日、那覇を出発し辺野古へ移動。平和フォーラムの森本さんと合流しキャンプ・シュワブゲート前に座り込みを開始。機動隊の強制排除に関する注意事項の説明を受け座り込みましたが、いつものように9時過ぎに工事車両が到着する前に強制排除が始まりました。この日は20台くらいと、いつもの半分以下の工事車両しか基地内に入



って行きませんでした。ミキサー車はその半分くらい入って行きました。このミキサー車、毎日運ばれる砕石が護岸工事に使われていますが、この護岸を保護する消波ブロック（テトラポット）の製造に使われているようです。大量のセメントが必要なため、当初は基地内にセメント用プラントを建設する計画までありましたが、今のところ毎日運んでいるようです。



テトラポット

砕石を積み上げた護岸  
長さ100m位

ちょうど私たちが辺野古を訪れた27日から、大型のクレーンを使いテトラポットの設置が行われたようです。

その後、森本さんに、大浦湾を一望出来る高台、オスプレイが墜落した海岸、嘉手納基地の弾薬庫が一望できる倉敷ダム展望台を案内いただきました。

高台の場所には昔、灯台が設置されていた所になりますが、今はすべて撤去されています。ハブが出るとの注意を受け、滑る山道を登りきると大浦湾が一望できる場所に到着します。

森本さんからキャンプ・シュワブ及び新基地建設の進行状況とその工事内容を説明いただきましたが、この綺麗な大浦湾が破壊さ

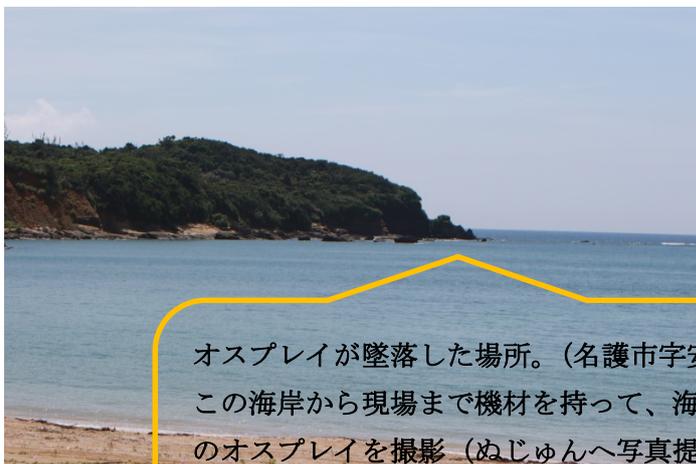
平和フォーラム  
森本さん



れていくのを見届けるしかできない現状にいらだちを感じます。護岸工事に使用する砕石に関しては県内の本部町と国頭村から調達しているとの事です。

続いて、オスプレイが墜落した岬が見える海岸に移動しました。

「ぬじゅん」創刊号の表紙を飾った墜落したオスプレイの残骸。どう見ても着水とは言えないと思いますが、後日、近くの海岸に乗員の所有物が事故現場から漂着しており、その書類に「NVD」とあり、専門機関で調査したところ、墜落日にオスプレイが行っていた訓練の主目的は、空中給油訓練ではなく、夜間の暗視鏡を使用した超低空飛行訓練だったと判断されています。要は操縦ミスによる墜落です。



オスプレイが墜落した場所。(名護市字安部ギミ崎)

この海岸から現場まで機材を持って、海兵隊より先に現地に行き、バラバラのオスプレイを撮影(ぬじゅんへ写真提供者)された牧志 治さん。

浅瀬なるも、墜落時に救難信号用の白いマーカーが海水を濁らせていたようです。

その後、名護市辺野古を後にし、嘉手納基地が見下ろせる嘉手納町倉敷ダム展望台へ移動。嘉手納基地とその隣接する施設が広大な面積を占めていることが、ここから見ると確認できます。

弾薬庫が締める面積が27k㎡、隣接する嘉手納基地とキャンプ・シールズを合わせると47k㎡。沖縄本島の4%になるようです。

1961年には1000発。ベトナム戦争が激化した1967年には1200発以上の核兵器がここに配備されていたとのことです。



嘉手納基地  
滑走路（05L / 23R）

嘉手納基地  
滑走路（05R / 23L）



写真からは切れていますが、この手前がダム湖（右写真）になり、滑走路の手前と右側（もっとあります）がすべて自然豊かな山林が広がっています。ここがすべて弾薬庫です。基地からは地下道で繋がっているとのこと。



警戒時には、ここにパトリオットミサイル（PAC3）が配置される。

ここで、森本さんと別れ、私たちは嘉手納基地に隣接する道の駅に向かいました。森本さんは辺野古へ戻り、午後の座り込みに備えるとのこと。私たちも、本来は昼過ぎまで座り込みの予定でしたが、嘉手納まで来てしまったため、予定を繰り上げて行動しました。

嘉手納基地を見渡せる道の駅に到着すると、駐車場がいつもになく混んでおり、展望デッキまで直行するとそこには大勢の取材人やカメラマンがウヨウヨ・・・その時は特別な機体が飛来するのかなで、しばらく見学し時間になったので普天間へ移動しましたが、翌日の新聞に「F35ステルス戦闘機が2機給油に飛来」との記事。多くのカメラマンがかまえるカメラのレンズだけで軽く2000万円は超えている状況にもビックリしましたが、帰ってから毎日チェックする「Osprey Fuan Club」というブログを見てさらにビックリ、26日から連続で3日間嘉手納に飛来していたようです（詳細はブログをご覧ください）。

「配備は形式上岩国に、運用は嘉手納」、「米軍再編交付金をもらうのは岩国市」、沖縄訓練海域まで飛来していたことは承知していましたが、岸本さんが言われていた事を裏付ける内容であり奥が深そうです。

このかでな道の駅から南方向に普天間基地がありますが、ここからオスプレイが盛んに飛んでいく様子が見えました。嘉数高台公園に移動し普天間基地を見ると、滑走路を修繕か何かの工事をしていました。



オスプレイは滑走路が無くても飛べますが、南側（写真手前）に位置する編隊（Dragons）が一機も姿が無く、どこか遠征でもしているのでしょうか。また、北側（写真奥）に位置する編隊（Flying Tigers）には8機のオスプレイが駐機していました。辺野古にいる時、姿は見えませんでした。オスプレイの爆音が聞こえていましたので、この飛行隊の機材が訓練に行っていたのでしょうか。

沖縄高専のすぐ横で、米軍が実弾練習とオスプレイの離発着が毎日繰り返されている実情に、政府は知ってか知らぬふり、本土では考えられない事ですが、沖縄では黙認されるこの事態はあきらかに異常であると考えます。

皆さん、実弾の音が響く場所で勉強できますか！安倍自・公政権は実弾の音を学生のうちに慣れさせようとでも思っているのでしょうか！酷い政権です。

28日、最終日は朝一番に沖縄南部の糸数アブチラガマへ見学に行きました。

アブとは深い縦の洞穴を表し、チラとは崖のこと。ガマとは洞穴やくぼみのことを言うそうです。

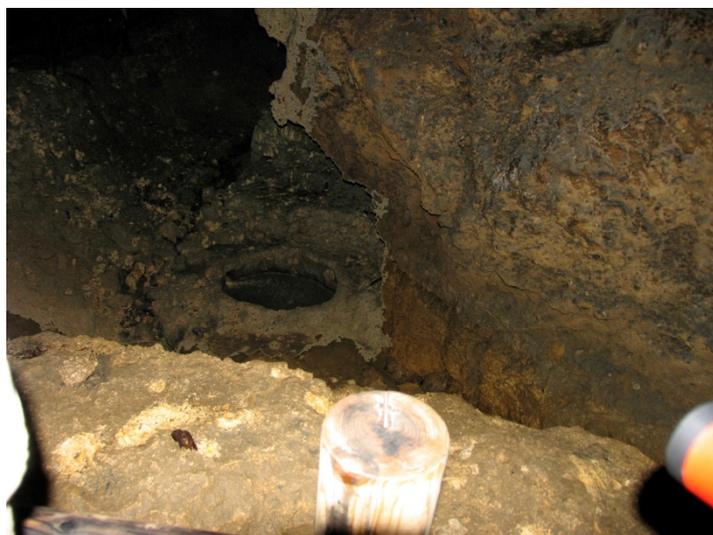
灯りのまったく無い、270mの洞穴に600名の負傷兵が運び込まれた病棟部と指令部、そして一番奥の出口（当時は入口となる場所）付近に住民区域からなる。

ここの一番の利点は、水があること。他のガマは水がなく、ひめゆり隊や住民が命をかけて水くみにいかされていたが、ここはその必要が無く、それだけでも非常にありがたいことだったとのこと。

今は写真撮影ができないため、井戸の写真は2005年に撮ったものです。今回3度目となるアブチラガマの見学でしたが、6月は初めてであり、梅雨明け後ということなのか、この井戸の周りは川となって水が貯まるようになっていました。

静まりかえったこの洞穴に、水が流れる音はさぞ、ここに居る人々には安心と元気を与えたのではと思いましたが、そのため、終戦後も外にできることを躊躇させ、より多くの犠牲者を出した原因ともなったようです。

このガマの上、現在マンション建設など進められ、ガマの内部へも多大な影響が出ていました。いたる所に補強が入られ、亀裂も多数見られるようになっており、今の法律ではガマ周辺の開発を止めることができないようで、非常に残念なことです。



今回ガイドしていただいた知念嶺子さんは、ここを訪れる皆さんに戦争という愚かなことに、多くの命が奪われたことの意味をしっかりと認識していただき、二度と戦争を繰り返さないために、ご自身の人生を捧げているような方でした。

現在70歳のようなのですが、滑りやすく足元が見えない洞穴の中を、どんどん進んでいく身軽なご婦人でした。

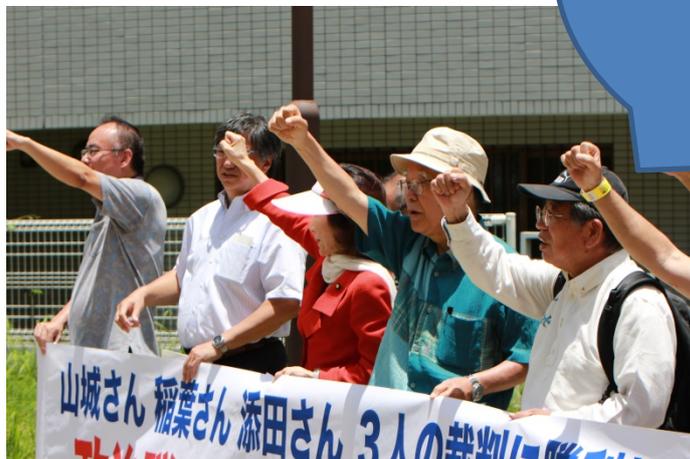


その後、アブチラガマの見学を終え那覇市に戻り、山城博治さん他2名の公判前集会に参加しました。



12時からの集会には、支援する多くの方が参加されていました。

まずは慣例のシュプレヒコールを行い、



不当弾圧を許さないぞ！  
不当な弾圧をやめろ！  
裁判を勝利するぞ！  
人権弾圧やめろ！  
裁判勝利まで頑張ろう！  
頑張ろう！ガンバロウ！

山城さんを支援する代表の山内徳信参議院議員から挨拶をいただき、続いて山城氏が挨拶をされました。

なお、今回の公判から、裁判長が替わる（健康状態が悪いからとの理由）異例の状態に、そして、公判内容も当初から変更され、防衛局職員の供述がされるようです。しかも、法廷内の証人席と傍聴席に仕切りがされるという閉ざされたこれまでに聞いたことの無い状況での意見陳述となりました。安倍政権に無理矢理担ぎ出された防衛局職員の稲葉氏には苦な場となるようです。

#### 山城氏の決意

「1000名を超える実力部隊を山に送りつけて、山を壊すな！貴重な自然を壊すな！と行って抗議の声をあげる沖縄県民に襲いかかった、安倍内閣の凶暴な警察部隊の、あのおぞましい実力行使について、なんらぶれること無く、それに抵抗し、抗議の声をあげた人間をかたっぱしから獄につないで、抵抗した者を公務執行妨害、威力業務妨害、傷害だといったのたまう、そういうことを証言しに来るそうです。しっかりと迎え撃ちたいと思います」

「誰が誰を告発するのか！ 誰が誰の罪を問うのか！ まさに裁判はその一点にかかっております。 私たちが、声を大にして言わなければならないのは、沖縄に言われる政府の構造的差別が構造的な暴力となって今襲いかかっているこの事態に、抗議の声をあげなければ、私たちは間違いなく圧殺されてしまう。戦前のようなあのすさまじい世界に放られる。そのことに恐怖をし、そのことに〇〇感を覚えるからこそ、今必死になってスクラムを組んで多くの涙を流しながら、血を流しながら抵抗してるんじゃないでしょうか！」

「是非、今日、裁判の中で彼が言う事を、防衛局の主張を聞いて、しっかりと反論すべき事は反論し、その日を待ちたいと思います。」

と挨拶をされ、法廷に向かわれました。とても元気になられており安心しましたが、公判は11月20日まで13回予定されています。

体力も必要となります。多くの支援がこれからも必要です。



●参加者（7名）

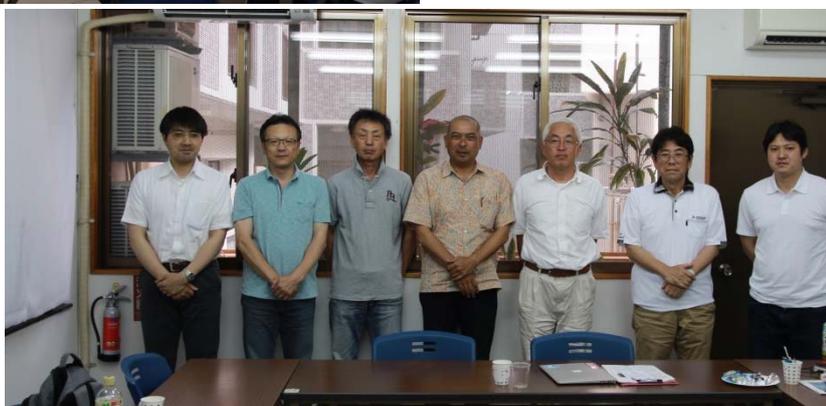
団長 濱 文智 長野県平和・人権・環境労働組合会議共同代表  
齋藤正美 護憲フォーラムにいがた代表  
有田純也 新潟県平和運動センター事務局長  
佐藤敏充 全日建連帯労組  
宮沢一美 全日建連帯労組  
甲谷尚英 三菱ふそうバス製造労組執行委員  
北原和雄 上伊那地区労働組合会議

●記録写真



26日  
学習風景

岸本さんと参加者



27日  
抗議行動に行くカヌー隊



大浦湾を一望できる高台



嘉手納町・倉敷ダム





嘉手納基地



普天間基地



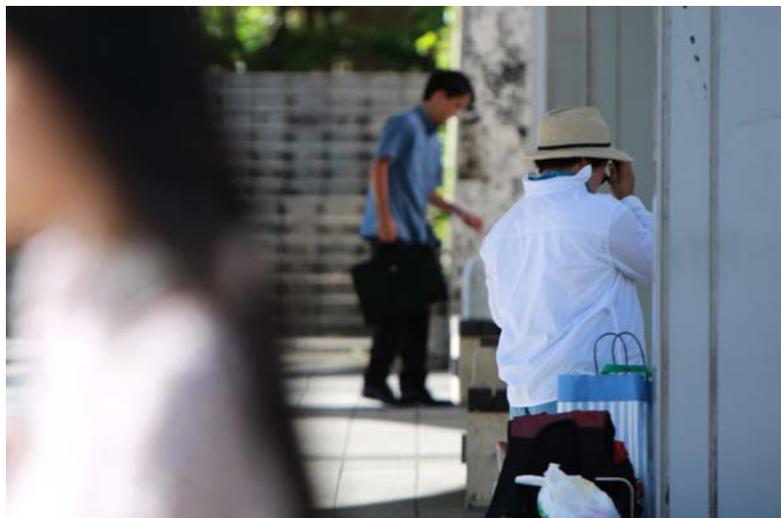
28日



アブチラガマへ向う集  
合場所とした県庁前広場  
にこのような簡易看板が

辺野古までの送迎車が  
ここに来るようです。

朝8時、なんとご婦人でした。これから辺野古の座り込み行動に参加される方です。  
私たちが出発すると入れ替えに、送迎車が到着しました。  
こんなんでいいのでしょうか！いつまでもおんぶにだっこ状態。



アブチラガマ

私たちの前後、本土からみえた学生さん達が大勢見学されていました。



公判前集会  
集会中に邪魔をしに来たどこ  
かの組織の皆さん



以上